

第2期 「ぐんま緑の県民税」効果検証のための調査

人工林における強度間伐後の樹冠疎密度の推移に関する研究

目的

第1期において確認された間伐の効果には、ばらつきがあった。
そこで第2期では、安定的に高い効果を発揮し、森林の公益的機能の増進を図るための間伐方法を検討する。

第1期の間伐効果の検証結果

林内光環境
の改善



間伐直後の林内相対照度
5%~36%

下層植生の発達



間伐後4年目植被率
0%~77%

森林の公益的機能の増進
(土砂災害防止/土壌保全機能等)



間伐前



間伐後

第2期の試験方法

間伐方法の検討

- ・材積間伐率に着目した間伐を行う
(間伐率25~35%)
- ・選木方法を検討する
(劣勢木、形状比、樹冠長、配置等)



間伐効果等検証

光環境の改善、下層植生の発達、
樹冠の閉鎖状況等を調査し、
間伐効果を検証する



◇試験地
県民税事業地、実験林、県有林

◇対象林分
樹種:スギ・ヒノキ 林況:下層植生に乏しい間伐手遅れ林分
林齢:スギ35年生以上、ヒノキ40年生以上

◇試験計画 1年目:試験地選定、間伐前調査、選木、間伐
2年目以降:モニタリング調査 5年目:最終報告、間伐方法確立